令和７年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 大宮西中学校 ）　　学校番号　２３４

【様式】

学校教育目標	創造する（かしこく）　心豊かに（ゆたかに）　鍛える生徒（たくましく）
目指す学校像	生徒・教職員　一人ひとりの志（希望）を支え、誰もが成長を実感できる笑顔（あい）あふれる学校

重点目標	１「学びの自律」「学びの個別最適化」と「学びの探求化」の実現 ２　組織で取り組む温かい人間関係の構築と生徒指導・教育相談体制の充実 ３　学校に携わるすべての人々の Well-being(幸せ)の実現に向けた、開かれた教育課程の推進 ４　安全・安心な教育環境の整備・充実 ５「生徒の探求的な学びに伴走できる教師」の具現化

※重点目標は５つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和８年２月１０日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【学びの質の向上に関する取組】 （現状） ○全国学力・学習状況調査において、数学、英語は、全国の平均を上回っているが、市の学習状況調査では、各学年市の平均を下回っている ○基礎学力の定着状況に大きな個人差（分布の二極化）がある。 （課題） ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、基礎的・基本的な知識・技能が定着していない部分があることと、「家で、自分で計画を立てて勉強している」の項目の数値が低く、学習計画の立て方や励ましの継続的な取組が必要である。 ○教科の特質に応じてＩＣＴを活用した学習活動を設定し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善が必要である。	・「学びの自律」「学びの個別最適化」「学びの探求化」に向けた実践	①学校の課題に基づき、学力向上ポートフォリオの手立てについて自己評価シートに各教員が位置付ける。 ②校務分掌の「学習部」を中心にドリルパークやスタディサプリの活用と家庭学習の定着・充実に取り組む。 ③生徒が主体的に取組む家庭学習の充実とモジュール学習の設定による基礎学力を定着させる。 ④学びの自律化を目指すＩＣＴを基盤とした「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業を実践する。	①人事評価面談において、すべての教員が位置づけ、評価面談等が実施できたか。 ②学校評価「⑤家庭学習の習慣がなされている」において、肯定的回答が５９％以上となったか。 ③定期テスト前の朝自習の時間を教科の取組として学習に取り組むことができたか。 ④「学びの指標」のアンケート項目で 3.1 以上となったか。	①ポートフォリオの手立てについて、全ての教員が位置づけ、また、評価面談についても実施できた。 ②学校評価の項目⑤については、生徒は６０％となり、昨年よりも１ポイント上がった。 ③定期テスト前の朝自習では、モジュール学習については、１２月までに１５日、４時間２５分行った。定期テスト前には朝学習の読書から教科の学習に切り替え取り組んだ。 ④「学びの指標」のアンケート項目では、４項目の平均は 3.2 となり、0.1 ポイント上がった。	A	①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実をさらに円熟させるために工夫のある取組を実践する。 ②生徒等の学習改善を図る、教育データの蓄積と適切な活用。 ③ICTの活用における個人の取組と協働的な学びに結びつける工夫する課題に取り組む。 ④生徒が主体的に取り組む家庭学習の充実とモジュールの設定。	・B 評価になっているが、内容を見ると A になる達成状況であると感じるので、A 評価でよい。
		・心の教育・豊かな人間性の育成	①自己の生き方について深める道徳科の授業改善や、特別活動総合的な学習の時間（潤いの時間 STEAMS TIME 等）を通して、豊かな人間性や創造性を育む授業実践に取り組む。 ②生徒会活動を活性化させ、校則の見直しやＳＤＧｓの実現を目指した取組、ボランティア活動を実践する。	①学校評価に係る項目「⑮学校は私たちの生き方について、考えさせたり豊かな心を育てようとしたりしている」について、肯定的な回答の割合が、94%以上となったか。 ②全国学力・学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいですか」の項目で肯定的回答が８０ %以上となったか。	①学校評価の項目１５については、生徒９０%、保護者８５%、教職員１００」%という結果になった。昨年と比較して、保護者は２ポイント、上昇したが、生徒が３ポイントマイナスとなった。職員は昨年度同様の結果であった。 ②全国学力・学習状況調査の結果では、肯定的な回答が目標の８０%であった。	A	①教科横断的な視点に立ち、実体験と実生活と結びついた授業の充実。 ②重点目標と特色を生かした「カリマネデザインマップ」を作成し育てたい資質能力の共通理解を図る。地域との交流とボランティア活動の推進。	
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 （現状） ○学校評価において、「楽しく学校生活を送っている」は 98%となり、昨年度をより３ポイント向上している。 ○特別に配慮を要する生徒の数は、年々増加傾向にある。 （課題）○中一ギャップ、生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、組織で支援・相談していく体制づくりが課題である。 ○信頼度における肯定的な回答は５６%であり、自己肯定感の向上を図る必要がある。	・個に応じた生徒指導・教育相談における支援体制の充実	①個別対応が必要な生徒への職員配置を柔軟に行い、個別の指導計画に反映させる。 ②生徒指導・教育相談・特別支援委員会等で、生徒個々の状況を、ICT（SSSP 等）を活用した蓄積データを共有して、組織的に細やかな支援、相談を行う。 ③「Sola るーむ」の運用と利用について体制を整える。	①学校評価に係る生徒・保護者「⑰学校は、私たちや保護者の相談事や悩みなどについて、親身に応じてくれる」等関連する項目の肯定的な回答の割合 93%以上となったか。 ②学校評価に係る教員において「⑰相談事や悩み事について親身に応じている」の肯定的な回答の割合が 98%以上となったか。 ③「Sola るームの適切な支援ができたか。	①学校評価の項目⑰の生徒・保護者の結果は、生徒９０%で昨年より１ポイント下がったが、保護者は８ポイント上がった。このことから、保護者との連携が円滑に行われたと考える。 ②学校評価項目⑰の教員は、１００%となり、昨年と同様であった。 ③「Sola るーむ」は毎日２～３名の生徒が通い、校内で安心して過ごせる自分の居場所となり、中には全く学校に通うことができなかった生徒が、給食を食べるまで過ごせるようになった。	A	①中一ギャップ、生活の変化に順応するための組織としての支援と取組についての共通理解を図る。 ②学校評価⑰における生徒、保護者からの悩み事に対する対応を寄り添って親身に応じる。 ③「Sola るーむ」と「相談室」の対応と支援、共通理解のもと、円滑に行い生徒の居場所となるようにする。	・「学校は、私たちや保護者の相談事や悩みについて、親身に応じてくれる」のアンケート結果について、保護者のポイントが昨年より８ポイント上がっている。この評価から学校と保護者の関係が良好であり、学校が生徒や保護者の悩みや相談に真摯に向き合い信頼関係があることの表れでもあると感じる。
		・連続性を生かした小・中一貫教育の推進	①大宮西小との相互授業参観や合同研修を実施し児童生徒の教育的課題を把握・共有する。 ②学校行事の充実・改善、つぼみの日、あいさつ運動、ひまわり特別支援学校との交流事業等を実施する。	①心と生活のアンケートの信頼度を昨年の値、56%以上となったか。 ②学校評価に係る生徒⑬学校行事は楽しく充実している」と肯定的な回答する生徒の割合が 98% 以上となったか。	①小中の相互授業参観や、夏の合同研修を実施し、児童生徒の学習の取組や課題について共有することが、今後の課題が明確になった。 ②学校評価⑬の生徒の割合は、９７%となり、昨年より１ポイント下がったものの、多くの保護者地域の方々に来校していただき、子どもたちの活躍の場を参観していただきことができた。	A	①小、中、特別支援学校との連携を図り、学習、生活面の課題や支援について共有し、９年間の学びの連続性を高める。 ②学校行事の充実・改善、つぼみの日、あいさつ運動、ひまわり特別支援学校との交流事業等を実施し、達成感となる取組とする。	
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 （現状）○藤花教室の学習支援ボランティア、自治会・育成会・PTA を中心とし、地域学校協働活動が実施されている。 ○土曜チャレンジスクール（藤花教室）の参加者については、減少傾向にあったが、昨年は７１名増加した。 （課題） ○学校運営協議会で協議した内容について、その実現に向けた具体的な方策と実行について役割を確認し、家庭・地域と共に、継続的に取組を推進していくことが課題である。 ○学校・家庭・地域が連携し、協働していくことが求められる。	・学校運営協議会・ＳＳＮ連携の強化と地域連携事業の実施と推進	①地域の教育リソース（土曜チャレ：藤花教室）を活用した教育活動を年間計画に位置付けて年 20 回実施と今年度より土、日の他、課業日開催を５回とし、参加者を増やす。 ②公民館との連携事業、地域行事等への積極的な参加と、朝のあいさつ運動やボランティア活動等を生徒、ＰＴＡ・地域とともに、連携して実施する。	①土曜チャレンジスクール（藤花教室）を、年間２０回実施し、昨年度平均参加人数が 22 人以上となり、前年度より増加している。 ②学校自己評価「⑪地域の行事に積極的に参加し「ている」で肯定的回答が 37%以上、「㉑保護者の行事参加」で、肯定的回答の割合が 82%を上回ったか。	①土曜チャレンジスクールは計画通り進められ、年間２０回を実施となり、参加者も前年度より増加した。 ②学校自己評価⑪は、生徒３５%となり昨年よりも２ポイント下がった。地域の行事には多くの生徒が参加させていただいているが、部活動等と重なり参加が難しいこともあることがわかった。学校評価㉑では、７５%で昨年より７ポイント下がった。学校公開は２学期までに１０回実施しており、当日参加できない保護者の方もおり、学校だよりや学年だより等によりその様子を伝えることはできた。	A	①土曜チャレンジスクールを学校全体に広報する。さらに自分のペースで学びながら藤花のスタッフの方からのアドバイスや支援を受けながら学習を進め参加率を上げる。 ②地域の清掃活動やボランティア等に関する情報を子どもたちに早めに伝え参加率を上げ、地域に貢献できる生徒を育てる。	・SNS のトラブルについて、学校としての考えを聞きたい。 ・学校としては、携帯・スマートフォン等の安全を年１回全校生徒対象に実施する、日ごろからの指導に加え長期休業前の注意喚起、保護者会や文書を配布して使用についての注意事項等の呼びかけを計画的に取り組んでいく。 ・SNS トラブルを他人事ではなく、自分事として捉えることが大切である。子どもたちが主体的なり、取り組むこと、自分たちで考えさせる、上から物を言うのではなく、楽しくクイズ形式する等で学ぶことがよい。「さいたま市ストップいじめ！子どもサミット」の取組はとてもよいと思う。このような内容容で自校で取り組むとよいのではないかと思う。 ・今年度においては、生徒会朝礼の中で生徒会長より市の取組に参加した様子をパワーポイントを使って伝え、実際にいじめに該当するか否かを全校生徒で考える場面を設ける等、有意義な時間とすることができた。
		・開かれた学校づくりを目指した情報発信	①教育課程説明会・保護者会・その他行事等において、目指す生徒の姿等を広く周知し、家庭、地域と共有できるようにする。 ②学校・学年だより、学校ＨＰ、学校安心メール等で情報を発信するとともにＩＣＴ等を活用しながら学校公開、授業参観、保護者会等を実施する。	①学校自己評価に係る生徒・保護者、「①目標をもって学校生活を送っている」の肯定的な回答の割合が 84%以上となったか。 ②学校評価「⑳保護者は学校とのコミュニケーションがうまくとれている」の肯定的な回答の割合が 82%以上となったか。	①学校評価①は、生徒８２%、保護者８０%となり、生徒２ポイント、保護者３ポイント下がった。学級においては生活、学習の目標を立て、生活できるように指導できた。 ②学校評価⑳では、８５%となり、昨年よりも３%上がった。このことから保護者と学校相互の考えを理解することできていたと考える。	A	①学校だより、学校 HP や Forms を活用し、学校運営協議会や生徒の様子が伝わる広報活動にする。 ②学校公開、授業参観、保護者会等を実施し、開かれた学校づくりを推進する。	
4	【教育環境の整備に関する取組】 （現状） ○施錠の徹底と施設、設備の安全点検を毎月行い、不備な箇所は迅速に対応している。 ○体罰・暴言・不適切な指導の研修を行い、未然防止に努めている。 （課題） ○SNS に関する使い方についての指導を行っているが、適切な利用について課題がある。	安全、安心な教育環境の構築	①校内の安全点検を毎月行い、不具合な箇所は業務や市教委と連絡を取り合い迅速に対応する。 ②教職員の不適切な指導に関する研修等を行い、教師としての自覚を高める。 ③生徒の作品展示	①月１回の安全点検を計画的に行うことができたか。 ②指導法の研修や教師としての自覚に関するアンケートを実施できたか。	①安全主任を中心として、毎月１回の安全点検を徹底することができた。 ②研修や長期休業前のアンケートを実施し教育公務員として自覚を持つことができた。 ③廊下や公民館にて生徒の学習成果を発表。	A	①正門、東門を閉める、職員玄関の出勤時、退勤時以外の施錠を徹底する。施設、設備の毎月の安全点検と不備な箇所は迅速に対応に徹する。 ②体罰・暴言・不適切な指導、交通事故未然防止に努め、全職員を対象に研修を行う。 （課題） ③SNS に関する使い方について、講師を招き全体指導を行い、日ごろからの注意喚起に努める。	
		生徒の安全指導に関する計画的な取組	①スマホ・タブレットに関する安全教室の実施と「いじめ防止」に関する取組を計画的に学校全体で行う。	①「いじめ防止」に関する取組を学校全体で実施できたか。また、生徒指導や教育相談に関する案件に対し迅速に組織で取り組むことができたか。	①いじめ撲滅強化月間に校長朝礼でいじめに関する講話を行った。生徒会では、あいさつ運動の実施や「いいねの日、いいねの木」を」作成し学級目標やクラスの良いところを共有し、全校で良い雰囲気づくりに取り組んだ。また、様々な案件に迅速に対応できた。	A	①校内にいじめを許さないという環境を作り、生徒一人ひとりがその自覚を持てるように、生徒会、道徳、特活、人間関係プログラム、総合的な学習の時間等を使い、豊かな心を育てる。	
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 （現状） ○ICT の活用については、提出物の集約や定期テスト、アンケート機能の活用等、進んでいる。 ○教員個々の研修については、面談等で行い、目標をもって取り組んでいる。 （課題） ○タブレットの活用、授業改善については個人差が見られ、成果や課題の共有が必要である。 ○組織としての質を高めるために、職員の状況把握と、支援内容の共通理解する必要がある。	・生徒の探求的な学びに伴走できる教師の具現化	①学力向上カウンセリングの研修と全国教員研修プラットフォーム Plant の積極的な参加する。 ②当初面談時に研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関する指導・助言と振り返りを行う。 ③中間テストの見直し・アンケート機能の活用等のさらなる活用に取り組む。	①後の、学びの指標、授業アンケート項目において３．４以上となったか。 ②学校評価「⑫学校はわかりやすい授業の実践に努めている」では、昨年度同 100%の教員が、授業改善に取り組むことができたか。 ③I 学期のテストの見直しができたか。	①学力向上カウンセリング研修を２学期に行い、テスト結果の分析を共有し、今後の授業に活かすことができた。全国教員研修プラットフォームPlantに計画的に参加し、教員としての資質向上に繋げることができた。アンケート結果は目標値より０．２ポイント下がっているが、市平均を僅かに超えている。 ②学校評価⑫では、教職員１００%の結果となり、日ごろから教材研究や研修に励み、わかりやすい ③１学期は期末テストのみとし、小テストや補助簿等も併せて生徒の学習状況を把握した。	B	①学力向上カウンセリングでは、調査結果の分析を共有することでその本校の状況を把握し、教科指導に生かすことができた。 ②本年度はさいたま市教育委員会より委嘱の「『個別最適な学び』と『協働的な、学び』の一定的な充実」の２年間にわたる研究の成果を発表することができた。学校評価の授業実践に関係する項目においては、１００%の教職員が肯定的な回答であった。 ③学校での授業と家庭学習の定着の課題を引き続き改善できるように取り組む。	・評価項目の達成状況の働き方改革に関する項目については、%ではなく、時間であることを訂正した。
		・業務の精選と効率化を図る	①朝の打ち合わせ日程削減・ICT 等の活用により、業務の効率化を 図る。	①朝の打ち合わせの内容の伝達の精選・昨年度の 40.56 時間を下回ったか。	①全職員が働き改革を視点にした業務改善に取り組んだ。各学期に一回 NO 残業 Day を実施した。 時間外在校時間は４月～１月は平均 36.4 時間であった。	B	①会議の精選、分掌の持ち方等、業務時間内で収まる工夫と改善に向き合い働き方改革を進める。	